



特集

安中の 未来を担う 新庁舎

安中市 企画政策部 財政課

■ 新庁舎建設の経緯

安中市役所の旧本庁舎は、南庁舎、旧庁舎、中庁舎、西庁舎など複数の建物で構成されており、特に旧庁舎と中庁舎は建築後50年以上が経過していました。耐震診断の結果、老朽化による耐震強度の不足が判明しました。さらに、災害時対応や市民利用への配慮、セキュリティ対策が不十分であるなど、多くの課題を抱えておりました。このことから、安全な防災拠点の確保等を目的として、「既存庁舎を活かした機能的で『シンプル・コンパクト』なSDGs型庁舎」をコンセプトとして事業を進めてきました。



安中市役所 新庁舎 外観

■ 新庁舎の特徴

1. 安全・安心な庁舎



2階待合スペース

耐震壁と斜め柱を組み合わせることで、耐震性能を確保しつつ、柱や壁の少ない空間を実現しました。このことにより、市民・職員の安全性はもとより、視認性の向上や、将来的なレイアウト変更にも対応しやすい構造としています。また、電力と通信は2つの経路から引き込むことで、これらの途絶を起こりにくくするとともに、自家発電設備により、72時間の電力確保ができるようにしました。これらにより、災害時にも行政機能を継続しやすい庁舎としました。

2. 自然にやさしい庁舎

省エネ設備・機器を採用することで、一次エネルギー消費量を50%以上削減する「ZEB Ready」を達成しました。さらに、待合スペースには中庭や吹き抜け、ハイサイドライトを設け、自然光や風を取り入れられるようにしています。このことにより、照明や換気の消費電力を削減しつつも、居心地の良い空間を実現しております。さらに、これらに自然排煙の機能を兼ねさせることで、排煙設備の導入・維持・更新コストを削減しました。



エントランスロビー

3. 安中らしい庁舎



議場

議場の内装には、上毛かるたにも登場する天然記念物である「安中原市の杉並木」をモチーフとして取り入れました。内装への市産木材の活用やハイサイドライトからの自然光により、木漏れ日を連想させる設えとしています。さらに、エントランスロビー等のコンクリートの型枠に杉材を用いることで、コンクリート表面に木目の風合いが表現され、柔らかく表情豊かな空間にしました。表面保護剤を塗布し、躯体そのままの仕上がりとするすることで、内装材のコスト削減とメンテナンス性を兼ね備えたものとしています。また、庁舎へのアプローチ空間である「すぎなみきのみち」も同様に、杉並木を着想のもととしています。旧中山道沿いの歴史ある景観を表現することで、故郷の面影を感じ、市民に愛着を持っていただけるよう工夫しました。

4. 遺構と庁舎との共存

飛鳥時代の東山道駅路跡や奈良時代の公的施設跡の遺構を可能な限り避けて庁舎を配置しました。その上で、外構デザインの中に遺構を表現する工夫を行い、遺構と新庁舎が共存する計画としています。単に新しい建物を建てるのではなく、地域の歴史や景観を受け継ぎながら、まちの将来を支える拠点として整備いたしました。

